

日刊 磐城時報

福島縣石城郡平町郵便局第十四番地
印刷 磐城時報社
電話 五七〇
代售 岩城郡平町郵便局第十四番地

本年は断じて水の値上げはせぬ

平製氷株式會社では去る二十六日から卸賣人制を廢し同時に水の値段を一貫七錢乃至八錢に値下げしたが、巷間の噂によれば氷の不足の場合若くは日照りがこの上繼續し需要が増加すれば値上をせざるを得ずと傳へられてゐる向きもあるやうであるが、之について平製氷會社事務加納五郎氏は「本年は或は値下げする場があるとしても絕對値上げはしない」と冒頭して左の如く語つた。

磐越銀行で重役二名を増員

小田、水内兩氏を推す
磐越銀行昭和四年上半期決算の株主總會は二十八日午前九時から開いたが出席株主五十三名、八千二百株で中野頭取が議長に就き營業報告書、損益計算書、利益金處分案を讀んで議決した。大谷喜作兩氏任期満了の處再選重役を決定したが、最後に取締役増員の件を附議したが増員する重役の選任については議長指名の下に鈴木亮、猪狩金之助、金成ら十一日まで七日間同校内に於き、佐藤作平の四氏を候補とて論議を再開する等目下會員募集の結果小田吉治、水内忠兩氏集中であるが、講習時間は手藝を重役候補から就任方を科午前八時より十二時迄、洋服を重役候補に交渉する事になつて散會科午後一時より四時迄で會費は

夏期講習會

平陽女學校で
八月五日から
夏期講習會

新舊思想の相違から遂に駈落して情死 女は絶命・男は危篤

平町紺屋町紺形親甥片寄功義にありふれた心中話として異り一(二)は兼てから平町鍛冶町高殿から注意を惹いてゐる。如來寺で
石城郡夏井村如來寺鈴木積善氏は八月一日から十日まで毎日午前七時半から九時半迄夏期學校開講する由で課程はお話、唱歌、復習、体操、作業等で指導員左の如し。
▲如來寺住職鈴木積善▲東京高等師範學生大和田道隆▲日本齒科醫專學生鈴木喜政▲早稲田大學學生鈴木美水▲女子職業學校生阿部花子

富士山竹馬踏破の記(一)

花澤輝一(記) 小林晴技記者
水屋が戀しくなる、夏の日は酷しい暑さをもちたらしめて容赦なく襲ひ來る、夏が來る毎に暑さが増す、暑さが増す毎に毎日何時も思ふのは寸暇を傷んでも千古不變の雪の蔵した高峯に登つて見たいと思ふこと、埃に染つた灰色になつた都會から山へ山へ誰れでも考ふであらう。私は、「まづ健康」なる標語を人間体力を發揮すべく又登山運動

前科四犯の賊 平署から逃走

なる者でも恐ることないと思ひます「ジョングライト」は「正を踏んで恐るゝなかれ」と申しました。私は健康なるものは如何なる敵も恐るゝことなかれと申したい。私はこの格言を皆さんがお忘れのないやうに健康につとめんことをお願い致します。吉田富士山踏破社を出発点として岩上、砂上や、あの胸突八丁を竹馬で踏破したと思ふことは甚だ冒險なやうに思はれました。然し人間として健康なるならば誰れでも出来ないことはないと思ひます。人間として登山体力と健康と忍耐力を試す上においては最も策を得たる考へと思ひます皆さんのおうちで富士山を竹馬で登つたと云ふことをきいたことがありますが私自身も外に誰れもないと思ひますこの計畫には東京日日新聞社が特別に審判官小林晴技記者寫真班小林真世記者、傳書鳩田中記者の下に決行したのであります。竹馬より足は地上へ付かざる規定であります。この壯舉に對しては徳川侯爵安藤子爵、福島縣知事、平伏見町長、海軍省、鐵道省、陸軍省、二百數十名の知名な方の署名の應援下されましたことは私の最も光榮とするところであります。(つづく)

焼酎を飲み水泳中溺死

二十八日午後二時頃小名濱町宇定西海岸に男の死体が浮き上つたので大騒ぎとなり平署に届け出たので平署から警部補出張検死した處、この男は内郷村大字宮字宮の澤居住磐城炭礦捲揚職工關根猛夫(二七)といふ者で當日焼酎を飲んで海に入つたため心臓麻痺で死亡したものと判明した。

富士山竹馬踏破の記(一)

二圃、希望者は同校夏期講習會宛申し込むべしと、講習科目左の如し。
一、婦人子供洋服 エブロン、二種、ブロットス、スリッパ三四才、男子服七八才、女兒服十二才、ブラウス及ジャンパー、フリース、婦人帽子
二、手藝科 ▲フランス刺繍及リボン刺繍 基本縫、鏡餅掛、座布圍カパー、洋服胸カザリ枕カバー、手提、花瓶敷、草履表 ▲ドロンウオーク及びハイダングラー 基本及應用、テーブル掛、ハンカチーフ、前掛 ▲編物(手編及文化編) (手編)子供帽子、靴下部分編、レース模様袖口、半袖帽子、(文化編)基本縫、子供帽子、花足袋、袖無 ▲マクラメシオリ、手提袋、電燈カバー、花澤輝一氏の成功祝賀會
平町白銀町マルカ書房では主催端端舊思想に提はれてゐるのとらなり來る八月三日午後六時から平町谷口樓で竹馬登山の花澤輝一氏の成功祝賀會を催すが會費二圃である。

浴客三名死傷

乗合自動車椿事

貨物自動車に跳ねらる

廿八日午前八時卅分頃石城郡湯本町鈴木自動車六三二號を運轉手三浦安次郎(二八)が運轉し海水浴客十數名を乗せしめ小名濱海水浴場に向つて疾走中小名濱町から鰯粕を満載して湯本町に向け疾走して来た小名濱藤屋自動車部事務齋藤貞次郎所有貨物自動車を運轉手丹野榮盛(二五)が操縦同郡玉川村地内ですれちがう際鈴木自動車の外部に乘車中の運轉助手鈴木長次(一八)並に乗客の石城郡内郷村大字白水浪花炭礦給仕三瓶長松(一七)同村炭礦夫齋藤三三(一八)の三名は貨物自動車にはね落され何れも瀕死の重傷を負ひ内部の乗客數名も輕傷を負ひ何れも湯本町入山病院に入院加療中であるが助手鈴木長次は同日正午絶命し同じく三瓶長松も生命覺醒ない。この騒ぎに平署からは鯨岡、埜の兩警部補が現場に急行關係者の取調べを行つた。

三山詣り出發

三丁目小島藤左衛門氏世話にかかる三山詣りは来る八月二日から三泊の豫定で出發する筈であるが會費は十五圓である。

原町通信

▲松本氏母堂逝去 政友會總務松本孫右衛門氏母堂銀子刀自(行年七十五才)には東京市代々木島中病院に入院加療中のごとく去る二十四日午前二時逝去せるに依り假葬を

村大字下船尾字萬次郎孫富岡マツヨ(七七)は二十七日午後二時頃同字禮堂地内用水堀で從妹ミドリ(六ツ)外一名と水泳中深みに入つて溺死した。

暑中御伺 納涼大興行

近日公開 満都熱狂のレビューと 映畫の夕 御安心如何ばかりか皆様の神無比の美女集團

愛宕神社昇格式

既報の如く大瀧村北原鎮守愛宕神社は今回指定村社に昇格せるため例祭を兼ね舊曆二十四日盛典を舉行する由。

各濱海水浴

本年は暑氣例年より甚だしき為め相馬地方の各濱は浴客にて大いに賑ひ諸戸濱は四五百人原釜は六七百人澁佐、雫濱は二百人内外なり。

相馬町村會

来る八月三日中村町元郡役所に於て午前九時より町村長會を開催し農業調査に關する件外二三を協議する由。

度量衡検査

来る八月十四日より三日間原町公會堂に於て各度量衡検査をなす由。

農蠶校剣道

二十八日曜に拘らず農蠶校に於て校友會及び原町武徳會の有志者に於て八幡村出身の齋藤五段を招聘し剣道大會を開催せり。

永山家の不幸

平町久保町永山和平氏令閨テウ夫人は病氣中の處二十八日午後零時三十分死去した。葬儀は三十日午後二時自宅出棺大林寺に於て営む由である。

用水堀で溺死

警崎

謹告
明三十日は本店葬儀當日につき臨時休業仕候
昭和四年七月二十九日
平町四丁目
永山酒造店總發賣元 敬白

氷配達夫募集
希望者は會社に御來談の事
平製氷株式會社
電話 二二八番 五〇二番

理化學研究所製
吸入用酸素、酸素吸入器
正確な体温器、寒暖計
特約店 開内藥局
電話 四〇番

外科 專門
花柳病科
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話 三〇九番

耳鼻咽喉科 專門
平町仲田町七一
新築場所 合津醫院
電話 五九五番

養命酒
不思議な靈効を有する
代理店 山野邊藥局
平町五丁目角

夏!!!
旅行に外出に
涼し氣な「パラソル」
麥帽の道行
夏物の御用意は何時も新し味の溢るる「ツルヤ」へ
平町四丁目 目
ツルヤ商店

謹啓 荊妻テウ儀病臥中之處藥石効なく廿八日午後零時三十分死去仕候此段御通知申上候
追而葬儀は卅日午後二時自宅出棺大林寺に於て佛式相營み可申候
昭和四年七月二十九日
平町久保町
永山和平

平町紺屋町
吉田眼科醫院
電話 六八番

印刷物は 加納活版所